

- 問1 インドとブラジルの畜産業を比較した統計において、両国とも牛の飼育頭数は世界有数ですが、その利用目的には大きな違いがあります。ブラジルでは牛肉の生産や輸出を目的とした肉牛の放牧が盛んですが、インドでは食肉用ではなく、主に乳製品を得るための乳牛としての利用が中心となっています。インドでこのような特徴が見られる背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 政府が急激な経済発展に伴う環境破壊を防ぐため、家畜の食肉処理を法律で制限しているため | 2. 国土の大部分が乾燥帯に属しており、肉牛を育てるための牧草地が不足しているため | 3. イスラム教の教えが社会全体に浸透しており、牛と豚の両方の食用が厳格に禁止されているため | 4. 人口の約8割を占めるヒンドゥー教徒の間で、牛が神聖な動物として崇められ、肉食が避けられているため |
|---|---|--|---|
- 問2 近年、中国や韓国、日本といったアジア諸国において、高齢化が急速に進行している背景や、その社会的な影響について述べたものとして、正しい説明はどれですか。 (2026年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 経済発展に伴う生活水準の向上や医療の普及により平均寿命が延び、同時に出生率が低下したことで、短期間で社会構造が変化している。 | 2. アジア州全体で合計特殊出生率が急上昇しており、将来的には高齢化率がヨーロッパ諸国よりも大幅に低くなることが予測されている。 | 3. アジア諸国では伝統的に大家族制が維持されているため、高齢化が進んでも社会保障制度の整備を急ぐ必要はない。 | 4. 欧米諸国に比べて労働力人口が過剰であるため、急速な高齢化による経済へのマイナスの影響は全く懸念されていない。 |
|---|--|---|---|
- 問3 アジア大陸の南部に位置し、世界第1位の人口を抱える国において、国民の約80パーセントが信仰している宗教を選択してください。この宗教は多神教としての特徴を持ち、人々の生活習慣や文化と密接に結びついています。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|----------|-------|
| 1. キリスト教 | 2. ヒンドゥー教 | 3. イスラム教 | 4. 仏教 |
|----------|-----------|----------|-------|
- 問4 インドの伝統的な衣装であるサリーには、通気性や吸湿性に優れた薄い布地が用いられます。このような衣類が定着した理由として、気候の観点から最も適切なものはどれですか。 (2025年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|
| 1. 年間を通じて気温が高く、夏の季節風によって湿度が高く雨の多い時期があるから。 | 2. 年間を通じて気温が氷点下に達するほど低く、風を防ぐ必要があるから。 | 3. 夏は雨がまったく降らずに酷く乾燥し、強い日差しから肌を守る必要があるから。 | 4. 年間を通じて雨がほとんど降らない砂漠気候であり、砂から身を守る必要があるから。 |
|---|--------------------------------------|--|--|
- 問5 中国政府が2010年代以降、長年続けてきた人口抑制のための厳しい制限を段階的に緩和し、現在ではすべての夫婦に3人までの出産を認めるなど政策の見直しを行っている主な理由は何ですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. 生産年齢人口の減少や、社会保障制度の維持が困難になる懸念が生じたため | 2. 周辺諸国からの人口流入が止まり、国内の総人口が急激に減少し始めたため | 3. 都市部への人口集中を解消し、農村部の労働力を確保する必要があるため | 4. 食糧生産技術が向上し、人口が増えても食糧不足に陥る心配がなくなったため |
|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
- 問6 近年のインドでは、世帯収入の向上に伴い社会構造が大きく変化しています。2006年から2015年の統計において、世帯数の約6割以上を占めるまでに急増し、インドが「巨大な消費市場」と呼ばれる原動力となった階層の名称として、正しい組み合わせを選びなさい。 (2018年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|------------|--------------|------------|
| 1. 都市貧困層・熟練労働者 | 2. 中間層・富裕層 | 3. 公務員・伝統的農民 | 4. 知識層・封建層 |
|----------------|------------|--------------|------------|
- 問7 中国の主要都市における一月の平均気温と降水量の特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 一月の平均気温は、北部のシェンヤン（瀋陽）よりも南部のコワンチヨウ（広州）の方が高い | 2. 一月の平均気温は、緯度に関わらず大陸の東側よりも西側の内陸部の方が高い | 3. 年間の降水量は、沿岸部に位置する上海よりも内陸部の都市の方が全体的に多い | 4. 北京の年間降水量は、南方の上海よりも多く、熱帯モンスーンの影響を強く受けている |
|---|--|---|--|
- 問8 インドでは近年、ICT（情報通信技術）産業が急速に発展し、国の経済成長をけん引しています。この背景にあるインドの社会的な特徴や強みについて述べた文として、最も適切なものはどれかを選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 公用語の一つである英語や、高度な数学教育の普及を活かし、ソフトウェア開発などのサービスを世界中に提供している。 | 2. 世界最大の人口による安価な労働力を最大限に活かし、衣類や日用雑貨などの労働集約的な軽工業を成長の柱としている。 | 3. 広大な国土で採掘される豊富な原油や鉄鉱石の輸出を主な財源とし、それをもとにハイテク産業への投資を行っている。 | 4. 東南アジア諸国連合（ASEAN）の中心メンバーとして域内の関税を撤廃し、周辺諸国との自由貿易によって工業化を進めている。 |
|--|--|---|---|
- 問9 世界の地形に関する説明のうち、ユーラシア大陸にあるヒマラヤ山脈の成り立ちや特徴について述べたものとして最も適切なものを選びなさい。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. インド亜大陸がユーラシア大陸に衝突することで隆起した、エベレストなどを含む険しい山脈である | 2. 南アメリカ大陸の西側に位置し、南北に約7,000kmにわたって長く伸びる環太平洋造山帯の山脈である | 3. アフリカ大陸北西部に位置し、地中海沿岸に広がる比較的新しい時代に形成された山脈である | 4. ヨーロッパ中央部に位置し、比較的古くに形成された後に再び隆起した、標高4,000m級の山々が連なる山脈である |
|--|--|---|---|
- 問10 2015年の統計によると、労働者の月額平均賃金は韓国で1,895ドル、中国で578ドルであるのに対し、ベトナムでは181ドルとなっています。このような労働賃金の格差を背景に、多くの企業が製造拠点をベトナムなどの新興国へ移転させる主な理由として最も適切なものを選びなさい。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|------------------------------------|---|
| 1. 現地での製品販売を目的として、人口増加に伴う巨大な消費市場を確保するため | 2. 労働力の月額平均賃金が安価であることを利用し、製品の生産コストを抑えるため | 3. 高度な技術力を持つ労働者が多く、精密機器の付加価値を高めるため | 4. 現地の豊富な天然資源を直接利用することで、原材料の輸送費用を削減するため |
|---|--|------------------------------------|---|
- 問11 鉄鋼の生産に必要なエネルギー効率を比較した際、世界平均を100とした推計値（2010年時点）において、日本（85）や韓国（88）は、中国（99）よりも明らかに低い数値を示しています。中国と比較した際の日本や韓国の鉄鋼業の状況について、正しい説明を選びなさい。 (2018年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 中国よりも鉄鋼の総生産量が多いため、スケールメリットにより1単位あたりのエネルギー消費が少なくなっている。 | 2. 中国よりも早い段階から環境対策や省エネ設備の投資を進めており、極めて高いエネルギー効率を実現している。 | 3. エネルギー効率を向上させることよりも、安価な電力を大量に消費して安価な鉄鋼を増産することに特化している。 | 4. 国内の鉄鋼需要が中国よりも少ないため、エネルギーを消費する製錬工程のほとんどを海外に移転している。 |
|--|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 人口の約8割を占めるヒンドゥー教徒の間で、牛が神聖な動物として崇められ、肉食が避けられているため	インドでは全人口の約80%がヒンドゥー教を信仰しています。ヒンドゥー教において牛はシヴァ神の乗り物とされるなど非常に神聖な動物とされており、殺して食べることはタブーとされています。しかし、牛乳やそれを加工したバター（ギー）などは貴重な栄養源として認められているため、畜産業は「乳製品の生産」に特化した形で発展しました。このように、特定の宗教の教えがその国の産業構造や統計データに強く反映される典型的な事例です。
問2	答え 1 経済発展に伴う生活水準の向上や医療の普及により平均寿命が延び、同時に出生率が低下したことで、短期間で社会構造が変化している。	アジア諸国では急速な経済成長に伴い、公衆衛生の改善や医療技術の普及が進み、平均寿命が大幅に延びました。その一方で、教育費の増大やライフスタイルの変化によって少子化も同時に進行しています。欧米諸国が1世紀近くかけて直面した人口構造の変化を数十年という短期間で迎えているため、年金制度や介護などの社会保障制度の整備を急ピッチで進める必要があることが大きな課題となっています。
問3	答え 2 ヒンドゥー教	南アジアのインドで最も多く信仰されている宗教はヒンドゥー教です。古代インドのパラモン教と民間の信仰が結びついて成立した多神教で、特定の開祖がいないのが特徴です。生活様式にも深く関わっており、牛を神聖な動物として大切にすることや、カースト制と呼ばれる身分制度の歴史的背景とも深く関連しています。
問4	答え 1 年間を通じて気温が高く、夏の季節風によって湿度が高く雨の多い時期があるから。	インドでは年間を通して気温が高く、さらに夏のモンスーン（季節風）によって湿気が多く蒸し暑い雨季が訪れます。そのため、風通しが良く汗を吸いやすい素材で作られた民族衣装のサリーが好まれて着用されてきました。
問5	答え 1 生産年齢人口の減少や、社会保障制度の維持が困難になる懸念が生じたため	急速な少子高齢化の結果、工場や建設現場などで働く若い労働力が不足し、経済成長を阻害する要因となっています。また、少なくなった現役世代が高齢者の年金や医療費を支えきれなくなるという将来的なリスクを回避するため、政府は出産を奨励する方向へと舵を切りました。
問6	答え 2 中間層・富裕層	インドの所得階層別世帯数の推移を見ると、かつては8割近くを占めていた低所得層が3割程度まで減少しました。これに代わって、購買力を持つ中間層が約2割から6割を超える規模まで拡大し、さらに富裕層も微増しています。これらの層がさまざまな製品を購入することで国内の需要が支えられ、インドは世界的に注目される魅力的な市場へと変貌を遂げました。
問7	答え 1 一月の平均気温は、北部のシェンヤン（瀋陽）よりも南部のコワンチョウ（広州）の方が高い	広大な国土を持つ中国では、緯度の違いが気温に大きく影響します。一月の平均気温を比較すると、緯度の高い北部（シェンヤンや北京など）は寒さが厳しく、緯度の低い南部（コワンチョウなど）は温暖になります。降水量については、上海などの東部沿岸の方が内陸部よりも多くなるのが一般的です。
問8	答え 1 公用語の一つである英語や、高度な数学教育の普及を活かし、ソフトウェア開発などのサービスを世界中に提供している。	インドはかつてイギリスの植民地であった背景から英語が公用語の一つとなっており、欧米企業とのビジネスが円滑に行える強みがあります。また、伝統的に数学教育の水準が高く、優秀なIT技術者を多数輩出していることが、ICT産業の発展や経済成長の大きな要因となっています。石油などの資源輸出に頼る経済構造ではなく、サービス業や高度な技術力が強みです。また、インドは南アジアに位置するため、ASEAN（東南アジア諸国連合）には加盟していません。
問9	答え 1 インド亜大陸がユーラシア大陸に衝突することで隆起した、エベレストなどを含む険しい山脈である	ヒマラヤ山脈は、巨大な大陸プレートどうし（インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレート）が衝突し、地層が押し上げられることで形成されました。この過程で世界最高峰の山々が作られ、現在も上昇が続いています。他の選択肢はアンデス山脈やアルプス山脈、アトラス山脈の説明であり、位置と成り立ちの組み合わせを正確に理解する必要があります。
問10	答え 2 労働力の月額平均賃金が安価であることを利用し、製品の生産コストを抑えるため	企業が海外に進出する大きな要因の一つに、人件費の削減があります。中国や韓国と比較して、ベトナムなどの新興国では労働者に支払う月額平均賃金が低く抑えられています。このような賃金の格差を利用することで、企業は製品を製造する際にかかる費用である生産コストを安く抑え、国際的な価格競争力を高めることができます。
問11	答え 2 中国よりも早い段階から環境対策や省エネ設備の投資を進めており、極めて高いエネルギー効率を実現している。	日本や韓国は、1970年代の石油危機などをきっかけに、エネルギー価格の高騰に対応するため世界最高水準の省エネ技術を開発・導入してきました。中国も世界平均よりは高いエネルギー効率を誇っていますが、膨大な生産量を支える過程で旧式の設定備も残っているため、数値上は日本や韓国の方がより高い効率（より低い消費エネルギー量）を示しています。鉄鋼生産量において中国は世界1位ですが、エネルギー効率の面では日韓がリードしているのが現状です。